

沖縄県西表船浮方言

荻野千砂子（福岡教育大学）

1 沖縄県八重山郡竹富町西表島の船浮（ふなうき）集落の概要

1. 1 地理的特徴・人口

八重山諸島の一つである西表島は 289.62 km²の広さがあり、沖縄県では本島に次いで二番目に大きな島である¹。山がちな地形で島全体が原始的な亜熱帯林に覆われている。西表島の文化圏は東部と西部に大きく分かれていて、船浮は西部に属する。現在、船浮に行くためには、石垣から上原港まで高速船で行き（1日に7便、片道45分）、上原港からは送迎バスで白浜港まで行き、さらに白浜港から船浮へ定期船で渡る（1日に4,5便、片道10分）。西表の西部で最も大きな集落は祖納（そない）であり、船浮まで距離は離れているが、マルブンサンという民謡の歌詞には竹富町字西表の小字として「アダチ（阿立）、ウフダチ（大立）、ウカリ（宇嘉利）、ソンバレ（下原）（以上の四つの小字は現在の祖納周辺にある）、マヤマ（真山）、ウキンチ（浮道）（以上の二つの小字は祖納と白浜の間にある）、ナリヤ（成屋：ウチパナレの対岸の地域）、フナウキ（船浮）」と、八つの集落の名が入っているという。これにより、祖納から船浮までが一つの文化圏「字西表」として認識されていたことが分かる。

昔は、船浮から石垣まで行くのが大変で、白浜港近くのハイザカ（ナリヤの海岸端のところ）の前が浅瀬であったため、干潮時は底の浅いサバニ船でも通れなかったという。そのため潮の加減によっては白浜まで行けず、乗員みんなでサバニを担いで運んだこともあったそうだ。当時、船が接岸できる港は白浜港だけであった。そのため、石垣に行くには、船浮から白浜港まで行かなければならない。満潮時を利用するため、朝早く白浜まで行き数時間石垣行きの船を待つこともあったという。そうやって白浜港から出発しても、いったん祖納沖に停泊するため（祖納にも接岸できる港がなかった。そのため、祖納からの人や荷物をサバニ船で運び入れていた）さらに時間がかかり、石垣に行くのに1日がかかりだったという話である。現在は、ハイザカの浅瀬を掘削して船の航路を作っているため、潮に関係なく定期船が通ることができる。

西表島での人口の推移を見る。大正 14（1925）年の 9,043 名、昭和 30（1955）年の 9,266 名と比較すると人口が減っており²、現在（平成 30（2018）年 1 月）の西表島の人口は、2,424 名である。だが、平成 16（2004）年には 2,134 名であったことを考えると、近年は若干の増加傾向にあるとも言える³。その中で現在の舟浮集落の人口は 43 名である⁴。

¹ 国土地理院 HP 平成 29 年全国都道府県市区町村別面積調（平成 29 年 10 月 1 日時点）付 3 島面積による。

² 『町制施行 50 周年記念 竹富町』平成 10 年度版竹富町勢要覧

³ 竹富町 HP の竹富町地区人口動態票による。

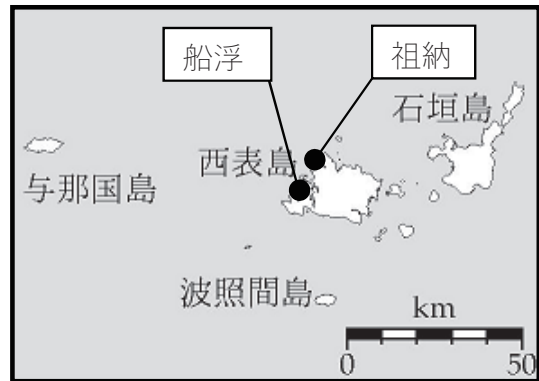
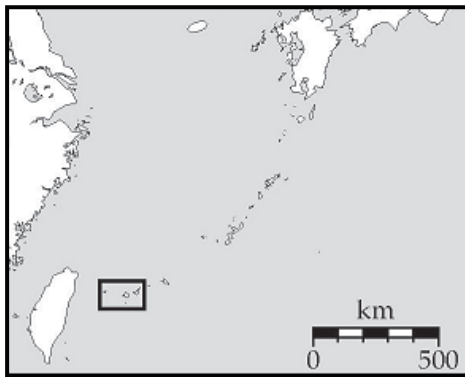
⁴ 役場の表記は「舟浮」とあるが、話者によると、元来「船浮」が正しいと言う。話者の見解を尊重するため、今後「船浮」と表記することにする。

1. 2 産業・生活

本報告での調査協力者は、清水光江氏（昭和3年生まれ的女性）と戸眞伊擴氏（昭和15年生まれの男性）のお二人である。お二人とも、現在、石垣市に在住している（清水氏は70歳まで船浮在住，戸眞伊氏は15歳まで船浮在住）。

昔の船浮での主な産業は農業であり、米が主たる現金収入であった。田は船浮集落の近くだけではなく、クイラ、ヒドリ（舟浮湾の奥のクイラ川下流）や、木炭（船浮の対岸の地域）、ユナラ（ユナラ川下流）や、ピシダやクマダラやサバ崎といった海岸沿いで山からの水が流れてくるところなどに点在していた。シコヤと呼ばれる田小屋を作り、そこで生活しながら米作りをしていたという。また、舟浮湾は豊かな漁場であり、8月9月は、ツノマタ（寒天の材料）とモズクが取れ、それを西表漁業組合（昭和47年に八重山漁業組合として合併）が買い上げていたので、それも現金収入となったそうである。戸眞伊氏は小学生の頃、一度イルカ漁を経験したそうだ。清水氏によると、集落総出のイルカ漁はそのときの一度だけだったという話である。学校も休みになり、子供たちは船に石や砂を積んで乗り込み、湾から出ようとするイルカを止めるため、湾の入り口で船を石でたたいて大きな音を出したり、砂を海中に撒いて、網のように見立ててイルカを湾の奥に追い戻したり、石を投げたりする仕事をしたという（イルカに当たり血が出るとフカがやってくるため、イルカは湾外には出ない）。そうやって、湾の奥にイルカを追い込み、銃やツバクロ（銃の一種でヤジリだけがイルカにささる）で仕留めたという話である。

（図）西表島船浮の位置⁵



2 先行研究

西表島方言に関しては祖納方言の報告がある。久野眞（1988）による音韻体系の分析があり⁶、金田章宏（2009）⁷（2010）⁸（2011）⁹では、格助詞や動詞の活用等の分析がなされ

⁵ 国土地理院発行の地図データをもとに Thomas Pellard 氏が作成した地図に加筆をしている。

⁶ 久野眞（1988）「西表島祖納方言の音韻体系」『琉球の方言』13

⁷ 金田章宏（2009）「沖縄西表島（祖納）方言の格ととりたての意味用法」『琉球の方言』33

⁸ 金田章宏（2010）「沖縄西表島祖納方言ーアスペクト・テンス・ムード体系の素描」『日本語形態の諸問題ー鈴木泰教授東京大学退職記念論文集』ひつじ書房

⁹ 金田章宏（2011）「八重山西表島（祖納）方言動詞の活用タイプ」『琉球の方言』35

ている。船浮方言に関しては、町博光（1984）がある¹⁰。金田章宏（2009）で述べられている祖納方言の格助詞・とりたて助詞を参考にしながら、荻野千砂子（2017a）では、助詞に関して意味用法の記述を深めることを試みた¹¹。その結果、格助詞やとりたて助詞の形態は祖納方言とよく似ていることや、形態は同じでも異なる用法があることが明らかとなった。また、占部由子（2018）があり、今後のさらなる研究が期待される¹²。

3 音素に関して

久野（1988）では祖納方言の音素を次のように分析している。

母音音素：/a, i, u, e, o, ã/

半母音要素：/j, w/

子音要素：/ʔ, h, g, k, d, t, z, c¹³, s, r, n, b, p, m/

拍音素：/N, Q, R/

荻野（2017b）では船浮方言の音素を次のように考えた¹⁴。

母音：/a, i, u, e, o, ã, ą, ɥ, (i)/

半母音：/j, w/

子音：/k, s, t, ts, tɕ, φ, h, m, n, r, kʷ, gʷ, z, p, b, g, d/

拍音素として、撥音 N，促音 Q，長音 R が加わる。祖納方言との相違として、無声化した母音を音素として立てることをあげる。ただし、[i]に関しては音声的に揺れることがあり、保留とする。また、二重子音の ss の音声もある。

4 音節一覧と語彙

以下に音節の一覧と語彙を載せる。表記は簡易的な音声記号とした。[tɕ]は c，[φ]は f で表す。/hja/ は [ça] であり、/fja/ は [φja] である。接辞境界は-，接語境界は=で表す。成節母音は N で表す。また、無声母音の例は有声母音の例と別に挙げることとした。表の空欄の音節は、今回の調査では見つからなかったが、今後、見つかる可能性あることを考えて空欄のまま載せることとした。アクセントに関しては、いくつかの語彙のみ付した。[は上昇，] は下降を表す。パターンとして一つ目は、高く始まり最後まで高く，二つ目は最後の音節が上昇し，三つ目は、マイナス 2 モーラで下がるという 3 パターンが見られる。しかし，三型アクセントとして A 系，B 系，C 系に該当するか否かは不明であり，今後の課題である。

¹⁰町博光（1984）「西表島舟浮集落の方言敬語法」『広島女子大学文学部紀要』19

¹¹荻野千砂子（2017a）「西表島船浮方言の格助詞ととりたて助詞」『福岡教育大学国語科研究論集』58

¹²占部由子（2018）「南琉球八重山西表島船浮方言の文法概説」 修士論文，九州大学

¹³久野真（1988）の p73 の表より，音声は [ts] である。

¹⁴荻野千砂子（2017b）「沖縄県西表船浮方言」『平成 28 年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」報告書』

(表1) 音節一覧と語彙用例

音節	例 1		例 2		例 3	
a	aba	油	aarucaN	とんぼ	aci _i mai	甘い
i	ai	けんか	iiroo/iiro	具がない汁	ujabi	上
u	ura	あなた	usi	臼	usi	牛
e	eNpitsu	鉛筆	ujabe=tti	上=へ	keera	みんな
o	ooni	うなぎ	oiza	ネズミ	oNgi	扇
ã	ucitã	弟	fã	食べない	fã	子供
i̇	fudaci _i mi	ヤモリ				
ka	kai	粥	kaaza	におい	kaara	瓦
kã	kãmadera	かまど	kãsa	傘	kãnapai	鍬
ki	kiizaN	かたつむり	inaci _i ki	杵	kii pai	木の鍬
k̄i	k̄isiri	煙管	k̄inu	着物	k̄imusittsa	可哀想
ku	muuku	婿	kukunutsu	9つ	kuNganja	シークワ ーサー
k̄u	k̄uri	これ	k̄usinee	腰	k̄umori	水たまり
ke	keNso	崖	keera	みなさん		
ko	koozi	麴	koomi	とさか	cikoho	ふくろう
sa	saba	草履	usaNzakja	おまえたち	sagaru	下がる
sã	sãta	砂糖	sãki	酒	sãnisai	嬉しい
si	si	巢	sikorai	塩辛い	paasi	箸
s̄i	s̄ima	相撲	s̄ikattu	とても	s̄ici	節祭
su	suuna	海	mussu	ゴザ	sunupa	海藻
s̄u	s̄une	祖内	s̄unuri	もずく		
se	seeroo	蒸し器				
so	soo	釣り竿	ssosi	白い	soogja	ふるい
ta	abuta	もっこ	taara	俵	taNgu	炭俵
tã	tãnju	天ぷらの油	tãna	棚	tãmunu	薪
ti	pitici	一つ	ti	手	tiN	天
tu	situNta	朝	itu	糸	tuci	妻
t̄u	t̄umari	戸眞伊屋号				
te	kãteci	ウニ				
to	tobira	ゴキブリ	toomai bukuro	糶入れ袋		
na	ana	穴	miina	庭	nassu	苗代田
ni	nisi	~ように	niisai	似ている		
nu	nu/nuu	何	nubasi	延ばせ(命令)	nuuN	蚤
ne	aNne	姉	kusi _i ne	腰		
no	noohiri	のこぎり	siino	粉ふるい	inoo	珊瑚礁

ha	nooha	ぬか	mahari	お椀	habiru/pabiru	蝶々
hi	hirabaci	大きな皿	moohi	昔		
he						
ho	hoi	～ぐらい	hoNma	長女	ci ₁ koho	ふくろう
fa	fai munu	食べ物				
fu	fuuN	あげない	furuja	便所	fuNda	床
fɥ	fɥni	船	fɥci	口	fɥsa	草
fe	fee/fai	食べろ(命令)	fe fe fe...	あらあら...		
fo	foo	食べる				
ma	maasu	塩	maa	孫	amaama	三女
mi	miina	庭	miisu	味噌	miNci	目
mu	muʃi	虫	mu]ci	餅	muNtara	腿
me	gaNzume	三つ又くわ				
mo	taamo	桃	moo[hi	昔	mooja	モーヤー
ja	jaadu	戸	uja	親	jaa[fu	權
ju	jukaru pitu	士族	juda	枝	juʃi[ki	すすき
jo	joo[bi	いくら	joo]ci	かんざし	joi	祝い
ra	too[ra	台所	jurasi	粃殻分ふるい		
ri	izari	漁り	uri	それ, あれ		
ru	juuru	夜	za(a)ru	どれ	puuru joi	豊年祭
re						
ro	roosoku	ろうそく	tsubakuro	銚(両鉤)		
wa	uwaN	ご飯	uu[wa	豚		
ga	garasi	カラス	gaba	垢	jaN[gara]si	山刀
gi	koNgi	桑の木	oNgi	扇	kjoNgiN	狂言
gu	gusi	神に飾った酒	guu[sa]N	杖	ii[gu]N	銚
ge	igesi	ツノマタ(海藻)				
go	saa[go]	咳				
za	zabura	頭	za(a)ru	どれ	pi[za]	山羊
zi	[zii	字	[uzii	年配の男性	azi	味
zu	piʃasi zuusi	固い雑炊				
ze	kazera	背中				
zo	zoori	濡れている	zoro zoro zuusi	軟らかい雑炊	zo]o	門
da	[daigu	大工	naada	涙	baa[da]/bada	腹
di	hu]di	筆	di	～と	madi	～まで
du	tuzubudu	夫婦	miiduN	女	du]si	友達

de	Nde	なぜ	fuNde	甘えること		
do	fuu]doo	ふとももの木	fudori	震える		
ba	baa[ki	かご	banu	私	ba]i	芽
bi	na(a)[bi	鍋	kabi	紙	bii]duN	男
bu	buu]si	節	[buunu	斧	kibu]si	煙
be	beenu	我が家の	baa bee]ha	うちの夫	[beru	舌
bo	boo[na]ci	とかげ	boo	棒	boori	疲れ
pa	pai	灰	paa	葉	pa]zi/pəci	蜂
pə	pəka	墓	pətee	畑	pəku	箱
pi	pii[du]u	いるか	piini	浅瀬(珊瑚礁)	piida	波打ち際
p̄i	p̄irosai	広い	p̄iru	にんにく	p̄isaN	昼
pu	c̄ipusi	ひざ	puuru joi	豊年祭		
p̄u	p̄usi	拾え(命令)	p̄usu	へそ	p̄usi	星
pe	peera]ku	瓢箪の匙				
po	poo[za]	包丁	poo]ki	ほうき	poo	穂
kja	usa kjaa	あんた達	kjaN]gi	いぬまきの木		
kju	kjuu]ra	木の陰	kjuu	今日		
kjo	kjoNgiN	狂言				
sja	koo[sja]N	菓子	misjakai	しゃもじ		
sju						
sjo						
tsa	kittsa	サトウキビ	asi[tsa]i	暑い	aitsa si	口げんか
tsu	tsuu[sa]i	強い	tatsu	立つ	matsu	待つ
tse						
tso						
ca	ca	お茶	aarucaN	とんぼ	baraN caN	藁のしん
ci	mici	水	icifu	いどこ		
c̄i	fudac̄imi	ヤモリ	c̄ina	綱	c̄iru	籠
cu	cukka	急須	kacu/katsu iju	カツオ	jaa[cu	お灸
ce	cee Ngo	さあ行こう	cee cee	さあさあ		
co	cokki	おやつ				
nja	buu]nja	妻の女親	juu[nja]	夕方		
nju						
njo						
hja	hjaku	百	gaahja	鎌		
hju						
hjo						

fja	fja/fui	塞げ (命令)	fja	食べる (命令)	fjaN?	食べた?
fju						
fjo						
mja	mjaN	無い	mja	～よ		
mju						
mjo						
rja	iirjaa	うるこ	aarjaN	アリ	naarjaN	実
rju						
rjo						
gja	soogja	籾殻糟の上に 飛ばす籠				
gju						
gjo						
zja	buuzja	自分のおじ	uuzjaN	ウジ		
zju	zjuuniN	10 人				
zjo	zjoo]ci	上手	tiNzjoo	天井		
dja	dja	～だの(並立)				
dju						
djo						
kwa	dakkwaru	くつつく	kwā	ここ		
gwa	guugwaN	小鳥	uugwai	怖い		
m	mma	馬	mmu	芋		

5 人称代名詞

琉球語の一人称代名詞では通常、包括形（聞き手を含む）と除外形（聞き手を含まない）の区別があるが、船浮方言は、一人称複数形の包括形が「人数による違い」により、さらに二つに分かれる。清水氏は一人称複数除外形の場合、人数に関わらず **paNkja** であるが、戸眞伊氏は人数が 5 名以上であれば **bahadaN** を使ってもよいのではないかと首をかしげる。ここでは、清水氏の意見をもとに（表 2）にまとめる。また、二人称複数形も「人数の違い」により三種類ある。また、二人称複数形では相手を罵倒する「お前ら」に相当する **usa+Nza+kja** がある。この言葉は子供に対して怒る場合に使用するという。

（表 2） 一人称と二人称の代名詞

一人称単数	一人称複数除外形		一人称複数包括形	
	2, 3 名	5 名以上	2, 3 名	5 名以上
banu	paNkja		baha	bahadaN
二人称単数	二人称複数			
ura	usa (2,3 名), usa+kja (4,5 名), usa+daN (7,8 名)			

- (1) baha {misutaaru/futaru} =si Ngir-u.
私達 {3人/2人} =INST 行く -NPST
私達 {3人/2人} で行く。(その場には3人, または2人だけがいる)
- (2) baha+daN goniN=si Ngir-u.
私達 5人= INST 行く -NPST
私達5人で行くよ。
- (3) paNkja misutaaru=si Ng-o.
私達 3人=INST 行く -INT
私達3人で行こう。(その場に10人いる。残りの7名は行かない)
- (4) {usa+kja/usa} kaNta=tti piNgir-ja.
お前達 あそこ=ALL 逃げる -IMP
お前達(2人), 向こうへ逃げろ。
- (5) usa+daN zaN=tti Ngir-ja.
お前達 どこ=ALL 行く -REA
お前達(7,8名), どこに行くのか。

6 格助詞

船浮方言の格助詞ととりたて助詞に関しては、荻野(2017a)に分析があるが、今回の調査で新たに分かったことがある。格助詞の用法を以下にまとめる。

- ① 主格を表す nu は主文では用いることがほとんど無く, 専らとりたて助詞 du を用いる。節の主語の場合に nu を使用してもよいとされるが du の方が言いやすい。
- ② 受身文で, もとの文の動作主を表す格助詞として ra と na があったが, 新たに tti も使用可能だと分かった。また, 戸眞伊氏は na が使用できるが, 清水氏は na は使用できないという判断であった。
- ③ 使役文で「私は弟を海で遊ばせた」のような放任を表す場合, 非使役者の「弟」を表す格助詞は ϕ か ba である。「私は弟に買い物に行かせた」のような強制を表す場合に格助詞 tti を用いる。
- ④ 具格の si は, 「30分=si 歩く」のような「時間を表す用法」があったが, 「30分蒸す」のようなときには使用できないことが分かった。動作主が行動している時間を表す用法と訂正する。

格助詞の一覧を金田(2009)の祖納方言と比較して, (表3)にまとめる。

(表3) 船浮方言の格助詞一覧

共通語	船浮	祖納	格	グロス	共通語訳用例
が	φ/nu	φ/nu	主格	NOM	花子が <u>言</u> ったことは本当か？
を	φ	φ	対格	ACC	お前は私 <u>を</u> 知っているか？
を	ba	ba	対格	ACC	石 <u>を</u> あの木に投げろ。
の	φ/nu	φ/nu	属格	GEN	私が蜂 <u>の</u> 巣を取った。
へ	titi	titi	方向	ALL	お前達、どこ <u>へ</u> 行くのか。
に	titi	titi	方向到着	ALL	あの絵は私 <u>に</u> ください。
に	titi	titi	隣接	ALL	空港 <u>に</u> 近い家はうるさい。
に	titi	titi	目的	ALL	孫の所 <u>に</u> 遊びに行く。
に	titi	titi	結果	ALL	太郎と次郎は医者 <u>に</u> なったって。
に	titi	titi	非使役者	ALL	私は弟 <u>に</u> 買い物しに行かせた。
に	titi	?	受身動作主	ALL	私はお婆さん <u>に</u> 叱られた。
に	na	na	存在場所	LOC	爺さんは山 <u>に</u> いらっしゃるよ。
で	na	na/nari	動作場所	LOC	山 <u>で</u> 薪を拾っていらっしゃるよ。
に	na	na	生じる場所	LOC	この綱をあそこの木 <u>に</u> 縛れ。
に	na	na	時間	DAT	明日8時 <u>に</u> 行こう。
に/から	?na/ra	ra	受身動作主	ABL	私はお婆さん <u>に</u> 叱られた。
から	ra	ra	奪格	ABL	二度と(今 <u>から</u>)しない。
で/から	si	si	具格	INST	酒は米 <u>で</u> 作るよ。
φ/で	si	?	行動時間	INST	山へ(向かい)30分 <u>で</u> 走った。
と	tu	ttu	共格	COM	太郎 <u>と</u> 次郎は医者になったって。
と	tu	ttu	対象	COM	あれもこれも芋 <u>と</u> 交換しよう。
より	kka/jokka	kka/juNka	比較格	COMP	今年は去年 <u>より</u> 暑くない。
まで	made	madi/madi na/madisi	限界格	まで	夜 <u>まで</u> かかった。
と	di	?	引用	QUOT	私は二度としない <u>と</u> 言った。

6. 1 φ格・nu格 (主格)

- (6) hanako={du/nu} ja-ada kutu fuNtoo?
 花子={FOC/NOM} 言う-PFV1 こと 本当
 花子が言ったことは本当か？

6. 2 φ格・ba格 (対格)

banu (私を) のときは、対格 ba を言わないことが多い。banu=ba となると「私だけを」という「とりたて」の意味が出てくる。

- (7) *ura* *banu* *si-iN?*
 あなた 私 知る-PROG
 お前は私を知っているか？

- (8) *isi=ba* *unu* *ki=tti* *naNgir-ja.*
 石=ACC あの 木=ALL 投げる-IMP
 石をあの木に投げろ。

6. 3 nu 格 (属格)

通常は属格を *nu* で表すが、人称代名詞の場合は *nu* が不要である。「私の味噌」は *banu misu*, 「あなたの味噌」は *ura misu* となる。

- (9) *baN=du* *paçi=nu* *si* *tur-ada.*
 私=FOC 蜂=GEN 巣 取る-PFV1
 私が蜂の巣を取った。

- (10) *ura* *misu=tu* *baa* *misu=tu* *azi+s-ii* *mir-uN=na?*
 お前の 味噌=COM 私の 味噌=COM 味する-SEQ1 見る-NPST=QES
 お前の味噌と私の味噌を味比べしようか。

6. 4 tti 格 (向格)

6. 4. 1 方向

- (11) *usa+daN* *zaN=tti* *Ngir-ja.*
 お前達 どこ=ALL 行く-REA
 お前達, どこへ行くのか。

6. 4. 2 方向到着

- (12) *unu* *ii=mee* *banu=tti* *hiir-i.*
 あの 絵=TOP 私=ALL くれる-IMP
 あの絵は私にください。

6. 4. 3 隣接

- (13) *kuukoo=tti* *iNcika-ru* *jaa=mee* *kaşamassa-i.*
 空港=ALL 近い-ADN1 家=TOP うるさい-NPST
 空港に近い家はうるさい。

6. 4. 4 目的地

「あの木に投げろ」「孫のところに行く」のように最終目的地の「に」格には *tti* を使うが、動作の目的を表す「遊びに行く」「見に行く」などの「に」格に相当する助詞はなく、

動詞の連用形を用いる。

- (14) maa=nu ka=tti asip-i Ngir-u.
 孫=GEN 所=ALL 遊ぶ-SEQ1 行く-NPST
 孫の所に遊びに行く。

6. 4. 5 結果

- (15) ura uja=tti niis-adaru=ra.
 お前 親=ALL 似る-PFV1=SPF
 お前は親に似ているね。

- (16) taroo=tu ziroo=mee isja=tti nar-ar-ida=di.
 太郎=COM 次郎=TOP 医者=ALL なる-POT-PFV1=REP
 太郎と次郎は医者になったって。

6. 4. 6 使役文の非使役者

- (17) banu=mee ucitā(=ba) suunaa=na asip-as-i s-ita.
 私=TOP 弟(=ACC) 海=DAT 遊ぶ-CAUS-SEQ1 する-PST
 私は弟を海で遊ばせた。

- (18) banu=mee ucitā=tti kaimunu s-i Ng-as-ita.
 私=TOP 弟=ALL 買い物 する-SEQ1 行く-CAUS-PST
 私は弟に買い物しに行かせた。

6. 4. 7 受身文の動作の主体

- (19) banu=mee appaa={ra/tti/?na} ja-ar-ida.
 私=TOP 婆さん={ABL/ALL/?DAT} 叱る-PASS-PFV1
 私はお婆さんに叱られた。

6. 5 na 格 (場所格)

6. 5. 1 存在場所

- (20) uzii=mee jama=na=du oor-iru=dura.
 爺さん=TOP 山=LOC=FOC いらっしゃる-PROG=SPF
 お爺さんは山にいらっしゃるよ。

6. 5. 2 動作場所

- (21) jamanaa=na t̄amuN pus-i oor-iru.
 山=DAT 薪 拾う-SEQ1 いらっしゃる-PROG
 山で薪を拾っていらっしゃるよ。

6. 5. 3 動作が生じる場所

- (2 2) unu cɨna kaNta=nu kii=na fuur-ja.
 この 綱 あそこ=GEN 木=DAT 縛る -IMP
 この綱をあそこの木に縛れ。

6. 5. 4 時間

- (2 3) attsa hacizi=na Ng-o.
 明日 8時=DAT 行く -INT
 明日8時に行こう。

6. 6 ra 格 (奪格)

6. 6. 1 受け身文の動作の主体

- (2 4) banu=mee appaa={ra/tti/?na} ja-ar-ida.
 私=TOP 婆さん= {ABL/ALL/?DAT} 叱る -PASS-PFV1
 私はお婆さんに叱られた。

6. 6. 2 奪格

- (2 5) banu=mee mina=ra s-aN=di ja-ada.
 私=TOP 今=ABL する -NEG=QUOT 言う -PFV1
 私は二度と (今から) しないと云った。

6. 7 si 格 (具格)

6. 7. 1 具格

- (2 6) saki=mee mai=si=du cikur-u=dara.
 酒=TOP 米=INST=FOC 作る -NPST=SFP
 酒は米で作るよ。

6. 7. 2 行動時間

- (2 7) jamana=tti sanzippuN=si p̄ar-i s-ita.
 山=ALL 30分=INST 走る -SEQ1 する -PST
 山へ (向かい) 30分_走った。

6. 8 tu 格 (共格)

6. 8. 1 共格

- (2 8) taroo=tu ziroo=mee isja=tti nar-ar-ida=di.
 太郎=COM 次郎=TOP 医者=ALL なる -POT-PFV1=REP
 太郎と次郎は医者になったって。

6. 8. 2 対象

- (29) uri=N kyri=N mmu=tu kookaN s-aa.
 あれ=ADD これ=ADD 芋=COM 交換 する-INT
 あれもこれも芋と交換しよう。

6. 9 kka (jukka) 格 (比較)

- (30) kutusi=mee kuuzuu= {jukka/kka} asitsa mjaN.
 今年=TOP 去年=COMP 暑い-INF ない
 今年は去年より暑くない。

6. 10 made 格 (範囲)

- (31) juru=made kakar-i s-ita.
 夜=まで かかる-SEQ1 する-PST
 夜までかかった。

6. 11 di 格 (引用)

- (32) banu=mee mina=ra s-aN=di ja-ada.
 私=TOP 今=ABL する-NEG=QUOT 言う-PFV1
 私は二度としないと行った。

7 とりたて助詞

荻野 (2017a) と比較して、今回の調査で新たに分かったことを、以下にまとめる。

- ① NdaN は「最低限の例示を表す」としていたが、今回は、最高程度を表す名詞を取ることでもできた。そのため、多くの選択肢から望ましい一つを取り出す用法があるのではないかと考え「選択例示」とした。
- ② na は「強調」を表すとしていたが、名詞に直接下接できなかつた。格助詞の具格 si に下接するときは使用ができた。接続の範囲は、今後の課題である。
- ③ sage の用法の一つとして「何もないときに、これだけは欲しい」という場合に使用されるため、「必要最低限のものを表す」とした。
- ④ hoi は中程度を表すとしていたが、一般的な出来事であれば、高い程度を表すときにも使用できる。だが、直接聞き手に言う場合に、ura=hoi (あなたぐらい) と言うと失礼になる。子供にだったら言える。基本的な程度性としては、中程度より低そうだ。
- ⑤ siko は最高の程度を表すことができるというのは確かだが、本人が経験不可能な立場にいると判断される場合には使えず、「様態」を表す nisi (ように) を用いる。
- ⑥ kja/daN を「私なんか」のように卑下するときのとりたて助詞としていたが、あくまで複数のときにしか使用できないことが分かった。よって「複数もどき」の用法はない。kja も daN も複数を表す接辞として使用されるため、本当にとりたて性があるのか、さ

らに調査をする必要がある。今後の課題である。
とりたて助詞の一覧を、金田（2009）の祖納方言と比較して（表4）にまとめる。

（表4）船浮方言のとりたて助詞

共通語	船浮	祖納	意味	グロス	共通語訳用例
ぞ	du	du	焦点	FOC	太郎の仕事を私 <u>が</u> した。
は	mee	mee	主題	TOP	お前の家は <u>遠い</u> から
も	N/miN	N/miN	累加	ADD	あれ <u>も</u> これ <u>も</u> 芋と交換しよう。
も	N/miN	?	添加	さえ	一回戦 <u>さえ</u> 負けた。
さえ	NdaN	NdaN	極端な例	さえ	一円 <u>さえ</u> 落ちていない。
でも	NdaN	?	選択例示	でも	お前 <u>でも</u> できなかつたら誰もできない。
ずつ	na	na	まとまり	ずつ	3人 <u>ずつ</u> 並べ。
こそ	na	?	強調	EMP	米 <u>だけで</u> 炊け。
だけ	gana/ gaanaa	gana/?	限定	だけ	ここに水 <u>だけ</u> ある。
さえ	sage	sage	程度（低）	さえ	太郎 <u>さえ</u> できるのに、お前はできないのか。
さえ	sage	?	必要最低限	さえ	薬 <u>さえ</u> あればよくなるのに。
ぐらい	hoi	hwee	程度（高）	ほど	今年 <u>ほど</u> 暑いときはなかったね。
ぐらい	hoi	hwee	程度（中）	ぐらい	お前が欲しい <u>ぐらい</u> 持って行け。
ほど	siko	siko/suko	程度（高）	ほど	白鵬 <u>ほど</u> 強くなれ。
ように	nisi	nisi	様態	ように	お前 <u>のように</u> 遅い人はいない。
ばかり	baaree baree	baree	おおよそ	ぐらい	白鵬 <u>ぐらい</u> 強いと面白いな。
ほど	fudu	fudu	程度	ほど	走れば走る <u>ほど</u> 疲れる。
だけ	dake	?	限定	だけ	行く <u>だけ</u> 行ってみよう。
なんか	kja/daN	kja/?	例示	なんか	私達 <u>なんか</u> 役に立たないよ。
まで	made	madi	添加	まで	お前 <u>まで</u> 言うのか。
か	kka	?	不定	INDF	どこ <u>か</u> に行けたらいいね。

7. 1 du によるとりたて

強調を表す。主文でも複文でも、特に動作主を表す位置で多く使用される。

(33) taroo=nu sigutu baN=du s-ita.

太郎=GEN 仕事 私=FOC する-PST

太郎の仕事を私がした。

7. 2 mee によるとりたて

「は」に相当する助詞は、mee である。

- (34) ura jaa=mee tuusa-ri-kii,
 お前の家=TOP 遠い-SEQ1-CSL
 お前の家は遠いから、

7. 3 N/miN によるとりたて

7. 3. 1 累加

- (35) uri=N kyri=N mmu=tu kookaN s-aa.
 あれ=ADD これ=ADD 芋=COM 交換 する-INT
 あれもこれも芋と交換しよう。

7. 3. 2 架空の出来事まで添加する

勝ち進むと思っていたチームが、一回戦敗退だった場面である。共通語で「*強いと思っていたのに、一回戦も負けた」とは言えない。共通語では「さえ」に相当する。N/miN は共通語の「も」と「さえ」の両方の性質を持つと言える。荻野 (2017a) では、仮説として N/miN は「一回戦で負けるということは、他の試合でも負けたことである」という複数の「架空の負け」が想定でき、「一回戦での負け」を複数の負けの一つとして捉えている可能性があるのではないかと考えた。

- (36) ikkaiseN=miN mah-i s-ita.
 一回戦=さえ 負ける-SEQ1 する-PST
 一回戦さえ負けた。

7. 4 NdaN によるとりたて

金田 (2009) では、NdaN は「ダニ系のとりたて助辞と見られる」との指摘がある。用法としては、①数が少ないこと「ひと月にしか〈NdaN〉ならない」、②未満（1つか2つか持っていないと驚いて）「3つしか〈NdaN〉持っていないのか」、③全否定「一回も〈NdaN〉驚いたことはない」、④極端な例「一円も〈NdaN〉大切にした」、⑤例示「茶でも〈NdaN〉飲もうか」の5つが示されている。船浮で音声として、前接の名詞が N で終わると、(37) のように daN になる。

7. 4. 1 極端な例

- (37) icieN=daN ut-i bur-aN.
 一円=さえ 落ちる-SEQ1 いる-NEG
 一円さえ落ちていない。

- (38) unu inu=mee mici=NdaN num-i nar-aN.
 この 犬=TOP 水=さえ 飲む-SEQ1 なる-NEG
 この犬は水さえ飲めない。

7. 4. 2 選択肢の中から一つを取り出す

大人の前を無言で通り過ぎる子供に対して、荻野（2017a）では「挨拶ぐらいしなさい」と注意する場面で *NdaN* が使える例があった。「*挨拶さえしなさい」と共通語では言えないので、極端な例の「さえ」とは異なる用法を持つと考えられる。最低限のマナーとして「挨拶」があるので、「最低限の例示を表す用法」と考えたが、今回（40）のような例も出てきた。「あなたでもできなかつたら、誰もできないよ」というのは、他の人と比較して「あなた」を高く評価している場面である。最低限の例示ではない。*NdaN* は多くの選択肢から、望ましい一つを取り出す用法があるのではないかと考える。

しかし、「お茶でも召し上がりませんか」と目上の人に尋ねる表現で「茶=*NdaN*」というとき、話者は「捨て言葉」だと説明する。「茶ぐらい飲んでいけ」のように解釈されるようだ。この場合、*jarabaN* を使う方が望ましいという。よって、例示の程度性としては甚だしいものを表すのが *NdaN* ではないかと考える。

(39) *aisatsu=NdaN* s-ja.

挨拶=でも する-IMP

挨拶ぐらいしなさい。

(40) *ura=NdaN* nar-anaa-kara taa=N nar-aN.

あなた=でも なる-NEG-COND 誰=ADD なる-NEG

あなたでもできなかつたら誰もできない。

(41) *nuuNkaN* mjaa naar-abaN *mici=NdaN* a-kkara *ikir-ari=su*.

何もかも なく なる-CNC 水=でも ある-COND 生きる-POT-NMLZ

何も無くなったとしても水さえあれば生きられるよ。

(42) *koosjaN=jarabaN* muc-i Ngir-ja.

お菓子=でも 持つ-SEQ1 行く-IMP

お菓子でも持って行きなさい。

7. 5 na によるとりたて

7. 5. 1 まとまり

共通語では、「～ずつ」に該当する。

(43) *misutaari=na* narab-i.

3人=ずつ 並ぶ-IMP

3人ずつ並べ。

7. 5. 2 限定性を強める

現在のところ、名詞に直接下接することはできず、具格の *si* にのみ *na* を下接することができる。しかし、すべての格助詞で調べたわけではないので、今後の課題である。

- (44) mai=si=na bass-ja.
 米=INST=EMP 炊く -IMP
 米だけで_炊け。

7.6 gana によるとりたて

gana は限定を表す。船浮では長音化した gaanaa と gaana も頻繁に使われる。「～しか～ない」という構文が、「名詞+gana=du+動詞の肯定形」で作られる。「飛行機は一日に一回しかない」を、話者は「飛行機は一日に一回 gaanaa=du aru」と言う。

- (45) uma=na mici=gaanaa=du ar-u.
 ここ=LOC 水=だけ=FOC ある-ADN1
 ここに水だけある。

7.7 sage によるとりたて

7.7.1 最低程度の例え

金田 (2009) によると, sage は極端な例を表すとされる。船浮でも同様の例もある。

- (46) taroo=sage nar-u=nuba ura=mee nar-aN=na.
 太郎=さえ なる-ADN1=AC お前=TOP なる-NEG=SFP
 太郎さえできるのに, お前はできないのか。

7.7.2 必要最低限のもの

自分にとって必要最低限のものを表す用法もある。荻野 (2017a) では「不可欠な最低条件」としたが、「何もないときに, これだけは欲しい」という場合に使用される。そのため, 今回「必要最低限のものを表す」と訂正した。

- (47) fʉsiri=sage a-kkara misaN nar-u=nuba.
 薬=さえ ある-COND 良い なる-ADN1=AR
 薬さえあればよくなるのに。

- (48) isja=sage oor-ukkara siba mjaN=joo.
 医者=さえ いらっしゃる-COND 心配 ない=SFP
 医者さえいらっしゃるから大丈夫よ (他に誰もいない)。

7.8 hoi によるとりたて

7.8.1 程度 (高)

「今年」が最高の暑さであるとき, hoi も siko も使用ができる。

- (49) kutusi= {hoi/siko/nisi} asitsa-ru basjo mjaN=dara.
 今年=ほど 暑い-ADN1 とき ない=SFP
 今年ほど暑いときはなかったね。

7. 8. 2 程度（中～低）

食事が余ったとき、「欲しいだけ持って行け」の「だけ」として hoi を使うと、(50) のように「みんなの分を考えて、一人分を持って行け（たくさんは持って行くな）」という意味が出てくる。荻野（2017a）では「まあまあの程度」を表すとして「太郎ぐらいできれば上出来だ」という例文を出したが、むしろ程度としてはかなり低いものを想定しているようである。(51) は子供に対してなら言える。大人に対しては失礼になるという。hoi は低めの程度を表すため、聞き手に対して使用すると聞き手を見下げた言い方になるようだ。

(50) ura pusaaru=hoi muc-i Ngir-i.
お前 欲しい=ぐらい 持つ-SEQ1 行く-IMP
お前が欲しいぐらい持って行け。

(51) ura=hoi nibisa-ru pitu bur-aN.
お前=ぐらい 遅い-ADN1 人 いる-NEG
お前みたいに遅い人はいない（親が子供を叱る）。

7. 9 siko によるとりたて

siko は最高の程度を表すことができる。(52) の場合、siko が使用できるのは関取を目指している人のみで、一般の人には例示として使うことができない。本人が経験できる立場にいるかどうかも考慮するようである。(49) の「今年ほど暑い年はなかった」では hoi が使用できたので、本人が経験できることであれば最高程度を表すことができる。

(52) hakuho={nisi/siko} tsuusa nar-i.
白鵬=ほど 強い-INF なる-IMP
白鵬ほど強くなれ。

7. 10 nisi によるとりたて

共通語の「くらい、ように」に該当する。様態を表す。

(53) ura={nisi/siko/*hoi} nibisa-ru pitu bur-aN.
お前=のように 遅い-ADN1 人 いる-NEG
お前のように遅い人はいない（大人には hoi が使えない）。

7. 11 baree によるとりたて

船浮では baree だけでなく、長音化した baaree もある。祖納に baaree と長音化する用法があるか否かは記述が無いので不明である。おおよその量を表す。

(54) hakuho={hoi/baaree} tsuusa-kkara umussa-i=ra.
白鵬=ぐらい 強い-COND 面白い-NPST=SFP
白鵬ぐらい強いと面白いな。

7. 1 2 fudu によるとりたて

「～すればするほど」のときに, fudu が出てくる。

- (55) p̄ar-ukkara p̄ar-u=fudu boori s-u.
 走る-COND 走る-ADN1=ほど 疲れ する-NPST
 走れば走るほど疲れる。

7. 1 3 dake によるとりたて

「～するだけ～しよう」のときに dake が出てくる。

- (56) ifu=dake ih-i mir-a.
 行く=だけ 行く-SEQ1 見る-INT
 行くだけ行ってみよう。

7. 1 4 kja/daN によるとりたて

荻野 (2017a) では, 祖納と同様に「複数形もどき」の用法もあるとしていたが, (57) のような「私なんか」という場合, 「なんか」には複数の意味が含まれており単数では使用できないことが分かった。単数の場合は (58) のようになる。kja も daN も複数を表す接辞としての用法もあるため, 本当に「私達なんか」のような卑下の場合に使うのか現時点では不明であり, 今後の課題とする。

- (57) paNkja jaku tat-aN=jo.
 私達 役 立つ-NEG=SFP
 私(達) なんか役に立たないよ。

- (58) banu=nisi=nu munu=mee nuu=N nar-aN.
 私=ような=GEN 者=TOP 何=ADD なる-NEG
 私なんかできないよ。

7. 1 5 made によるとりたて

- (59) ura=made=N i-i=su.
 お前=まで=ADD 言う-INF=NMLZ
 お前まで言うのか。

7. 1 6 kka によるとりたて

疑問詞に下接する。荻野 (2017a) では「誰か」の例で ta=kka と kka の例をあげたが, 前の名詞が N で終わると ka でも出てくる。

- (60) zaN=ka=tti Ngir-ar-ikkara misaN=ra.
 どこ=INDF=ALL 行く-POT-COND いい=SFP
 どこかに行けたらいいね。

8 「おおきなかぶ」船浮方言版

船浮方言での「おおきなかぶ」の談話を以下に示す。グロスに関しては、まだ不明な部分もあるため、暫定的に考えられるものを付した。一行目は平仮名で表記しているが、その際、母音の無声化が生じている音節には平仮名の右上に*印を付した。

まいさーぬかぶ	でい	ば*なしば	みなら
maisa=nu	kabu=di	panasi=ba	mina=ra
大きい=GEN	かぶ=REP	話=ACC	今=ABL
大きなかぶって話を			今から

いいきー	しきとーりよ。	えい。	うじーどう
i-i-kii	sik-i toor-i=joo.	ei	uzii=du
言う-SEQ1-CSL	聞く-SEQ1	下さる-IMP=SFP	はい おじいさん=FOC
言うから	聞いてくださいね。		はい。おじいさんが

だいぐにぬ	た*にば	まはだでい。	あち*まー	あち*ましる
daiguni nu	taniba	mah-ada=di.	acimaa+acima-siru	
大根=GEN	種=ACC	まく-PFV1=REP	甘い+甘い-ADN1	
大根の種をまいたって。			甘い甘い	

だいくにになりよー	でい	いいってい	あって	また	まいさー	まいさしぬ
daiguni=ni	nar-i=joo=di	i-itti	atte	mata	maisaa+maisa-sinu	
大根=DAT	なる-IMP=SFP=QUOT	言う-SEQ2	そして	また	大きい+大きい-ADN2	
大根になれよってと	言	って	そして	また	大きい大きい	

だいぐにに	なりよー	でい	いいってい	まはだでい。	あち*まーし
daiguni=ni	nar-i=joo=di	i-itti	mah-ada=di.		acimaa-si
大根=DAT	なる-IMP=QUOT	言う-SEQ2	まく-PFV1=REP		甘い-SEQ1
大根になれよって	言	って	まいたって。		甘くて

がんにゅーさる	き*みっさい	し*かつとう	まいさい
gaNzjuu-saru	kimissa-i	sikattu	maisai-i
元気-ADN3	すばらしい-NPST	とても	大きい-NPST
立派な	すばらしい	とても	大きい

だいぐにどう でいきだでい。 うじーめ だいぐにば ぬふんでき
 daiguni=du dik-ida=di. uzii=mee daikuni=ba nuf-uN=di
 大根=FOC できる-PFV1=REP おじいさん=TOP 大根=ACC ぬく-NPST=QUOT
 大根が できたって。 おじいさんは 大根をぬこうと

しーだ すぬ ひやこらさ でい いいってい
 s-iida=su=nu hijakorasa=di i-itti
 する-PFV1=NMLZ=AC よっこらしよ=QUOT 言う-SEQ2
 したけど よっこらしよって言って

ぬはだ すぬ あっすぬ だいぐに めー ぬはるんだでい。
 nuh-ada=su=nu assunu daiguni=mee nuh-ar-uN-da=di.
 ぬく-PFV1=NMLZ=AC だけど 大根=TOP ぬく-POT-NEG-PFV1=REP
 ぬいたけど だけど 大根はぬけなかつたって。

うじーめ あっばーば ゆらび きたでいそー。
 uzii=me appaa=ba jurab-i k-ita=di=soo.
 おじいさん=TOP おばあさん=ACC 呼ぶ-SEQ1 くる-PST=REP=SFP
 おじいさんはおばあさんと呼んで 来たって。

あって あっばーどう うじーば び*きってい うじーどう
 atte appaa=du uzii=ba pik-itti uzii=du
 そして おばあさん=FOC おじいさん=ACC 引く-SEQ2 おじいさん=FOC
 そして おばあさんが おじいさんを引いて おじいさんが

だいぐにば び*き
 daiguni=ba p*ik-i
 大根=ACC 引く-SEQ1
 大根を引いて

ひやさーこらさーでい いいってい ひかだ すぬ うり しん
 hijasaa korasaa=di i-itti hik-ada=su=nu uri s-iN
 うんとこしよ どっこいしよ=QUOT 言う-SEQ2 引く-PFV1=NMLZ=AC それ する-CNC
 うんとこしよどっこいしよって引いたけど、 それでも

だいぐにめー ぬはるんだ。

daiguni=mee nuh-ar-uN-da.

大根=TOP ぬく-POT-NEG-PFV1

大根はぬけなかった。

あっぱーめー まーば ゆらびきー

appaa=mee maa=ba jurab-i ki-i

おばあさん=TOP 孫=ACC 呼ぶ-SEQ1 来る-SEQ1

おばあさんは孫を呼んできて

まーどう あっぱーば ぴ*き

maa=du appaa=ba p̥ik-i

孫=FOC おばあさん=ACC 引く-SEQ1

孫がおばあさんを引いて

あっぱーどう うじーば ぴ*き

appaa=du uzii=ba p̥ik-i

おばあさん=FOC おじいさん=ACC 引く-SEQ1

おばあさんがおじいさんを引いて

うじーどう だいぐにば

uzii=du daiguni=ba

おじいさん=FOC 大根=ACC

おじいさんが大根を

ぴ*かだでい。

p̥ik-ada=di.

引く-PFV1=REP

引いたって。

ひやさーこらさーでい

hijasaa korasaa=di

うんとこしょ どっこいしょ=QUOT

うんとこしょどっこいしょって

いいってい

i-itti

言う-SEQ2

言って

あっすぬ めーだ めーだ だいぐにめー ぬはるん。

assunu meeda meeda daiguni=mee nuh-ar-uN.

だけど まだ まだ 大根=TOP ぬく-POT-NEG

だけど まだまだ大根はぬけない。

まーめー いんば ゆらびきってい

maa=mee iN=ba jurab-i ki-itti

孫=TOP 犬=ACC 呼ぶ-SEQ1 来る-SEQ2

孫は犬を呼んできて

いんどう まーば ぴ*き

iN=du maa=ba p̥ik-i

犬=FOC 孫=ACC 引く-SEQ1

犬が孫を引き

まーどう あっぱーば ぴ*き

maa=du appaa=ba p̥ik-i

孫=TOP おばあさん=ACC 引く-SEQ1

孫がおばあさんを引き

あっぱーどう うじーば び*きってい

appaa=du uzii=ba p̥ik-itti

おばあさん=FOC おじいさん=ACC 引く-SEQ2

おばあさんがおじいさんを引いて

うじーどう だいぐに び*き

uzii=du daiguni p̥ik-i

おじいさん=FOC 大根 引く-SEQ1

おじいさんが大根を引き

ひやさーこらさーでい いいってい

hijasaa korasaa=di i-itti

うんとこしょ どっこいしょ=QUOT 言う-SEQ2

うんとこしょどっこいしょって

び*かだ すぬ

p̥ik-ada=su=nu

引く-PFV1=NMLZ=AC

引いたけど

うりやらばん めーだ めーだ ぬはるん。

uri=jar-abaN meeda meeda nuh-ar-uN.

それ=COP-CNC まだ まだ ぬく-POT-NEG

それでもまだまだぬけない。

いんめー まやーば ゆらびきー

iN=mee majaa=ba jurab-i ki-i

犬=FOC 猫=ACC 呼ぶ-SEQ1 来る-SEQ1

犬は猫を呼んできて

まやーどう いんば び*き

majaa=du iN=ba p̥ik-i

猫=FOC 犬=ACC 引く-SEQ1

猫が犬を引き

いんどう まーば び*き

iN=du maa=ba p̥ik-i

犬=FOC 孫=ACC 引く-SEQ1

犬が孫を引き

まーどう あっぱーば び*きってい

maa=du appaa=ba p̥ik-itti

孫=FOC おばあさん=ACC 引く-SEQ2

孫がおばあさんを引いて

あっぱーどう うじーば び*き

appaa=du uzii=ba p̥ik-i

おばあさん=FOC おじいさん=ACC 引く-SEQ1

おばあさんがおじいさんを引き

うじーどう だいぐに び*き

uzii=du daiguni p̥ik-i

おじいさん=FOC 大根 引く-SEQ1

おじいさんが大根を引き

ひやさーこらさーでい び*かだ すぬ

hijasaa korasaa=di p̥ik-ada=su=nu

うんとこしょ どっこいしょ=QUOT 引く-PFV1=NMLZ=AC

うんとこしょどっこいしょって引いたけど

うりやらばん かぶめー... (言い間違い) だいぐにめー
 uri=jar-abaN kabu=mee ... daiguni=mee
 それ=COP-CNC かぶ=TOP... 大根=TOP
 それでもかぶは... 大根は

ぬはるんだ。 まやーめー おいぎーば ゆらびきー
 nuh-ar-uN-da. maja=mee oizaa=ba jurab-i ki-i
 ぬく -POT-NEG-PFV1 猫=TOP ねずみ=ACC 呼ぶ-SEQ1 来る-SEQ1
 ぬけなかった。 猫はねずみを呼んできて

おいぎーどう まやーば び*き まやーどう いんば び*き
 oizaa=du majaa=ba pij-k-i majaa=du iN=ba pij-k-i
 ねずみ=FOC 猫=ACC 引く-SEQ1 猫=FOC 犬=ACC 引く-SEQ1
 ねずみが 猫を引き 猫が犬を引き

いんどう まーば び*き まーどう あっぱーば び*きってい
 iN=du maa=ba pij-k-i maa=du appaa=ba pij-k-itti
 犬=FOC 孫 =ACC 引く-SEQ1 孫=FOC おばあさん=ACC 引く-SEQ2
 犬が孫を引き 孫がおばあさんを引いて

あっぱーどう うじーば び*きってい うじーどう
 appaa=du uzii=ba pij-k-itti uzii=du
 おばあさん=FOC おじいさん=ACC 引く-SEQ2 おじいさん=FOC
 おばあさんがおじいさんを引いて おじいさんが

だいぐに び*かだでい。
 daiguni pij-k-ada=di.
 大根 引く -PFV1=REP
 大根を引いたって。

ひやさーこらさーでい いいってい びかだ すぬ... (言い間違い)
 hijasaa korasaa=di i-itti pij-k-ada=su=nu...
 うんとこしょ どっこいしょ=QUOT 言う-SEQ2 引く -PFV1=NMLZ=AC...
 うんとこしょどっこいしょって引いたけど

こらさーでい いいってい ぴ*き

korasa=di i-itti pj̄k-i

どっこいしょ=QUOT 言う-SEQ2 引く-SEQ1

どっこいしょって言って引き

やっとかつと しー

jatto katto s-ii

やっとかさ する-SEQ1

やっとかさ

だいぐにめー ぬはりしたでい そー。

daiguni=mee nuh-ari s-ita=di=soo.

大根=TOP ぬく-POT する-PST=REP=SFP

大根はぬけたってさ。

【グロス一覧】

ABL	ablative	奪格
AC	adversative conjunction	逆接
ACC	accusative	対格
ADD	additive	添加
ALL	allative	向格
ADN 1-3	adnominal	連体
AR	anti realvirtual	反実仮想
CAUS	causative	使役
CSL	causal	理由
CNC	concession	譲歩
COM	comitative	共格
COMP	comparative	比較
COND	conditional	条件
COP	copula	コピュラ
DAT	dative	与格
EMP	emphasize	強調
FOC	focus	焦点
GEN	genitive	属格
IMP	imperative	命令
INDF	indefinit	不定
INF	infinitive	連用
INST	instrumental	具格

INT	intentional	意志
LOC	locative	場所格
NEG	negative	否定
NMLZ	nominalizer	名詞化
NOM	nominative	主格
NPST	non-past	非過去
PAL	parallel	並列
PASS	passive	受身
PFV 1-2	perfective	完了
POT	potential	可能
PST	past	過去
PROG	progressive	進行
QES	question particle	疑問助詞
QUOT	quotative	引用
REA	realis form	已然
REP	reportative	伝聞
SEQ 1-2	sequential	継起 (テ形)
SFP	sentence final particle	終助詞
TOP	topic	主題
+		複合境界
-		接辞境界
=		接語境界

【参考文献】

- 占部由子（2018）「南琉球八重山西表島船浮方言の文法概説」 修士論文, 九州大学
- 荻野千砂子（2017a）「西表島船浮方言の格助詞ととりたて助詞」『福岡教育大学国語科学研究論集』58
- 荻野千砂子（2017b）「沖縄県西表船浮方言」『平成28年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」報告書』
- 久野真（1988）「西表島祖納方言の音韻体系」『琉球の方言』13
- 金田章宏（2009）「沖縄西表島（祖納）方言の格ととりたての意味用法」『琉球の方言』33
- 金田章宏（2010）「沖縄西表島祖納方言ーアスペクト・テンス・ムード体系の素描」『日本語形態の諸問題ー鈴木泰教授東京大学退職記念論文集』ひつじ書房
- 金田章宏（2011）「八重山西表島（祖納）方言動詞の活用タイプ」『琉球の方言』35
- 町博光（1984）「西表島舟浮集落の方言敬語法」『広島女子大学文学部紀要』19